

ASSOCIAÇÃO CENTRAL NIPO-BRASILEIRA NOTÍCIAS E INFORMAÇÕES

# ブラジル特報



No.1658  
2020年9月号

## 特集 カエターノ・ヴェローゾの魅力

- ・カエターノ・ヴェローゾを語る
- ・『Verdade tropical』から『熱帯の真実』へ

あの町この町  
ガラニユンス Garanhuns

0円



一般社団法人 日本ブラジル中央協会

URL <http://nipo-brasil.org/> E-mail [info@nipo-brasil.org](mailto:info@nipo-brasil.org)

〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-2 明宏ビル本館 5 階 TEL:03-3504-3866 FAX:03-3597-8008 発行人：大前孝雄／編集人：岸和田仁

新規会員募集中!

詳しくは P21 をご覧ください。





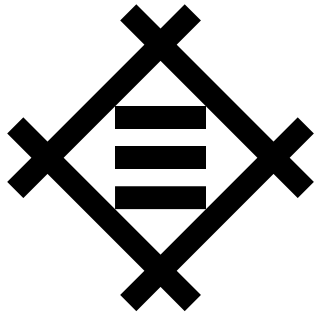
# 世界の未来を、ブラジルとつくる。

[Business innovation-1]  
鉄道と港湾を一体化させ、物流を効率化。  
鉄道網と港湾ターミナルの複合一貫サービスを提供するVLI社に出資参画。  
たとえばサントス北西のティブラム港で、取扱貨物を次々と拡大。

[Business innovation-2]  
貨車リースで、全土に広がる陸上輸送モデルを確立。  
MRCLA社を通じてリース事業を展開。貨車6,000両以上、機関車20両以上で国じゅうを縦横につなぎ、穀物・肥料・鉄鋼製品・燃料などを運搬。物流の安定化に貢献。

[Business innovation-3]  
現場のニーズに細やかに応える農薬事業で、農業の発展を。  
オウロフィーノ社に出資参画。大規模な農地が多いブラジルで、気候条件に適した農薬製剤を開発。作物の順調な生育を農薬で支え、増産や品質向上に貢献。

世界の未来を、世界とつくる。三井物産



MITSUI & CO.

三井物産株式会社 www.mitsui.com

## 目次

|                                                                                                |    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| あの町この町<br>ガラニユンス [岸和田仁] .....                                                                  | 3  |
| ブラジル・ナウ<br>カエターノ・ヴェローゾ著『熱帯の真実』<br>日本語完訳版ついに刊行<br>[『ブラジル特報』編集部] .....                           | 5  |
| 【特集】カエターノ・ヴェローゾの魅力<br>カエターノ・ヴェローゾを語る<br>[中原 仁] .....                                           | 6  |
| 【特集】カエターノ・ヴェローゾの魅力<br>『Verdade tropical』から『熱帯の真実』へ<br>[国安真奈] .....                             | 8  |
| ブラジルの校長直接選挙制度<br>その歴史と意味 [田村徳子] .....                                                          | 10 |
| ブラジル現地報告<br>マスク着用が日常となったブラジル [平野 司] ...                                                        | 12 |
| 連載・日系企業シリーズ<br>ポルトガル語隔週刊誌 alternativa の歴史<br>来年には 20 周年 [菊地シルビア] .....                         | 13 |
| 連載・ビジネス法務の肝<br>汚職に関する法律 [柏 健吾] .....                                                           | 14 |
| 連載・税務の勘どころ<br>ブラジル国税庁 (Receita Federal) 2020 年税務調査計画<br>税務当局の今後の焦点項目<br>[ベドロ・アンデルス/吉田幸司] ..... | 15 |
| エッセイ<br>アマゾンの旅に想いを馳せる ～世界一美しい川ビーチ～<br>[山本綾子] .....                                             | 16 |
| ウーマン・アイ<br>現代に息づく 一本の糸と針でつくる ブラジルの手編みレース<br>[Yasuko] .....                                     | 17 |
| ジャーナリストの旅路<br>改正入管法30年、日系ブラジル人の今 [田口直樹] ...                                                    | 17 |
| 連載・文化評論<br>経済学者セルソ・フルタード生誕100周年<br>バライーバの生んだ逸材 [岸和田仁] .....                                    | 18 |
| 最近のブラジル政治経済事情 .....                                                                            | 19 |
| キャンパス・コラム<br>ブラジルにおける人種問題 [安彦優希] .....                                                         | 19 |
| 新刊書紹介 .....                                                                                    | 20 |
| 連載・ブラジルあれこれ<br>BRASIL para principiantes(3)<br>- Introdução ao Código Secreto - (続き) .....     | 20 |
| 協会からのお知らせ .....                                                                                | 21 |



写真＝永武ひかる  
「表紙のひとこと」  
「頭にターバン、腰に揺れる大きなスカート。バイーア地方の民族衣装で踊るカーニバルの“バイアーナたち”。リオのパレードに欠かせないダンス隊の一群で、メンバーは年配女性。サンバの母のように敬い愛される存在だ。」  
永武ひかる：ブラジル撮影約30年、著作に写真絵本「世界のともだち3 ブラジル」（偕成社）等。www.hikarunphoto.com

## ガラニユンス Garanhuns

ベルナンブーコ州ガラニユンス市。州都レシーフェから西へ230kmほど入ったところに位置する内陸の中堅都市で、現在の人口は14万人ほどだ。  
海拔841mという高地に開かれた町なので、冬季に相当する6月から8月にかけては、最低気温が10℃前後となり、ガラニユンスの街中を歩く人たちは、長袖にセーターやカーディガンを羽織ったりしている。年がら年中Tシャツ一枚だけで過ごせる熱帯のノルデスチ地方では“特異な”風景であり、「ベルナンブーコのスイス」と呼ばれるのも当然だろう。ここは、酷暑から逃れる、文字通りの避暑地であり、かつては結核患者の転地療養用のサナトリウムも設けられていた。



ガラニユンスは、Serra Branca（白い山脈）ブランドのミネラルウォーターの源泉地としても知られており、レシーフェ住民であった筆者は、このブランド水を「ベルナンブーコのハクサン高原水」と勝手に命名して愛飲したものだ。

「ノルデスチの軽井沢（いや、清里か）」であったこの町の主な産業といえるのは、この地の気候条件を生かした、乳牛主体の牧畜と乳製品加工業と観光業である。1990年代に入ると、毎年7月に開催される「冬季音楽フェスティバル」に有名歌手も複数参加するようになって、彼らをみようという観光客が“殺到”して、



観光ビジネスも急成長してきた。  
そんなガラニユンスが、一層脚光を浴びようになったのは、同地出身の元労働運動リーダーのルーラ（ルイス・イ

ナシオ・ダ・シルバ）が2002年の総選挙で大統領に選出されたからだ。「おらが町の大統領」の気持は絶大で、彼が大型収賄疑獄容疑で2018年4月に逮捕・収監されたあとも、「生けるアイコン」への崇拜は衰えていない。

さらに新しい観光名所が生まれそうである。街の中心部から10kmほど離れたところに、大規模ブドウ園が6年前から開拓され、カベルネ・ソーヴィニヨン、マルベックといった選抜された苗が整然と植付けられている。併設されたワイナリーには、第一回収穫から抽出されたワイン原酒が既に樽に詰められて眠っており、来年2021年早々には、一般販売を開始する由だ。清浄な空気とワインを楽しめる農園ホテルも敷地内に建設中なので、ガラニユンスはワイン・ツーリズムの町としても有名になりそうだ。



岸和田仁（『ブラジル特報』編集人）



# 世界を繋ぐネットワーク

## 安心安全な空の旅を



FLY BETTER

エミレーツ航空は旅客機の就航都市を増やしています。就航都市に関する最新情報は、[emirates.com/wherewefly](http://emirates.com/wherewefly) でご確認ください。エミレーツ航空では徹底した衛生管理を行い、お客様に安心安全な空の旅をお楽しみいただけるよう努めております。

  
Emirates



BRASIL  NOW

ブラジル・ナウ

## カエターノ・ヴェローゾ著『熱帯の真実』 日本語完訳版ついに刊行

今やMPB（ブラジルポピュラー音楽）のレジェンドとなったカエターノ・ヴェローゾ。彼がバイア州サント・アマロでオギャーと生まれたのが1942年8月7日であったから、今年の誕生日で78歳になった。年齢では正真正銘、バリバリの後期高齢者である。（後期高齢とは日本的な区分けであり、ブラジルでは60歳以上は一括してidoso（高齢者）として分類されるが。）

加齢はあっても老化とは全く無縁でアクティブな人生を過ごしている高齢者は、洋の東西を問わず、日本でもブラジルでも少なからずいるが、カエターノはそんな現役高齢者の代表例といってよいだろう。その活躍の舞台は、1960年代から続けられているシンガー・ソングライターとしてばかりでなく、批評家・作家としても現役であり続けており、彼のファンでなくても、その知的パワーには圧倒されてしまうからだ。

例えば、7月29日、英国の有力紙ザ・ガーディアンが、長文のカエターノのインタビュー記事を掲載していたが、そのインタビューは途中休憩なしで3時間に及んだという。また8月7日の誕生日ライブでは、息子たち（モレーノ、ゼカ、トン）と共にリオの自宅からネット配信しており、「コロナ自粛隔離生活」を余儀なくされたはずなのに、カエターノの美声は変わらず、健康状態は全く良好といえそうだ。

そんなカエターノは、「フランスかぶれ」の中産家庭環境で少年時代を過ごし、青年になると地元の最高学府バイア連邦大学で西洋哲学全般（文学も含め）を学び、ニーチェからサルトル、メルロポンティ、レヴィ＝ストロース、ブルーストと濫読した由だが、彼が学生時代に活躍を始めるのは、まずは批評家としてであった。4歳年上の「同じバイアーノの兄貴」であった映画監督グラウベル・ホッシャの知遇を得て地元紙に書き続けた映画批評が評判を呼ぶようになったからだが、1965年になって「たまたま音楽活動を生業にすることになった」カエターノは、朋友ジルベルト・ジルらとともにトロピカリズムと呼ばれる先進的カウンターカルチャー音楽活動を展開していく。が、軍事政権の強権発動が本格化した68年末、警察当局によって逮捕され、2か月間の拘禁を経て、二年半の英国ロンドンでの亡命生活を余儀なくされる、という激動の日々に見舞われることになる。

70年代以降のミュージシャンとしての八面六臂ともいえる活躍ぶりは広く知られている通りであり、来日公演も4回行っていることから、日本でもカエターノのライブを自分の

五感で実体感したファンは数知れない。また、文筆家として新聞や雑誌に健筆を揮ってきたが、時に論争を起こしたこともあった。

彼がニューヨークタイムズに「カルメン・ミランダ論」を寄稿したところ、その文章に感銘した米国の出版社から「自伝的随想録」執筆のオファーがあって、という経緯を経て書き上げたのが、“Verdade tropical”（初版1997年）であった。英訳版“Tropical truth”のほうが先に刊行されたが、その訳文に納得できなかったカエターノは、ポルトガル語による改訂版を2017年に上梓している。

こうした背景を持つ『熱帯の真実』は、ミュージシャンによる当事者証言ないし回想録といったレベルを遥かに超えた、ブラジル現代史の同時代証言でもあり、読み通すのがシンドイ哲学エッセイ集にもなっている。カエターノという類いまれなる知性が、国の近代化（マクロ）と自分自身の知的成長（ミクロ）とを、ある時は並行的に、ある時はそれぞれを交差させ複眼的に、考察しつつした成果を文章化した自伝的哲学試論である、というのが筆者の読後の感想である。

なにしろ、改訂版に付された「新版・序」という序文だけで中編小説くらいの分量があり、「僕はただの田舎の大学の元学部生から大衆音楽の歌手になっただけで、知識を蓄え、整理するための方法を何も発展させなかった」とか、「エドゥアルド・ヴィヴェイロス・デ・カストロ」の著作を三冊立て続けに読んで、彼の知性の力強さに仰天した」とか、読者を驚かすような文章があちこちに書かれているのだ。しかも、この新・序文を書いた時、カエターノは75歳だった！

この増補改訂版の日本語完訳『熱帯の真実』が、9月、ついに刊行されることになった。

訳者は、ルイ・カストロ『ボサノヴァの歴史』（音楽之友社）、エレナ・ジョビン『アントニオ・カルロス・ジョビン』（青土社）などの名訳で知られる国安真奈さんだ。原著自体が分厚く、膨大な文字量が収まっており、しかも文章は長文で直線的でなく曲線に次ぐ曲線でややこしいから、訳業は大変な手間と時間と知的作業を要したことは間違いない。

この快挙を記念する意味もあって、本号をカエターノ・ヴェローゾ特集とした次第だ。日本においてカエターノを語らせたら右に出る者がいない中原仁さんと訳者国安真奈さんに寄稿していただいた。お二人の玉稿を玩読していただければ幸いである。

『ブラジル特報』編集部



# カエターノ・ヴェローゾを語る



中原 仁  
(音楽・放送プロデューサー)

## カエターノ音楽との出会い

カエターノ・ヴェローゾの音楽を初めて聴いたのは40数年前、70年代の後半だった。同時期に聴いていた、ミルトン・ナシメント、ジルベルト・ジル、シコ・ブアルキ、ジョルジ・ベンといった同世代のシンガー・ソングライターと比べると、カエターノの印象は“ポップなアーティスト”。初めて買った彼のレコードにビートルズ・ナンバーのカヴァーが3曲、入っていたことも理由のひとつで、今、名前をあげた人たちの、情熱的で重量感があるスケールの大きな音楽性と比べると、カエターノの音楽はポップな分、軽く響いたというのが正直な第一印象だったが、敷居が低く自然体で親しめる音楽でもあった。当時はポルトガル語が全くわからなかったので、彼の“鍊語術”と呼べる詩の美学に触れるまでには至らなかったが…。

## 1987年、リオのライブ

初めてカエターノのライブを聴いたのは、87年、リオデジャネイロ。レコーディングの仕事が終わった日曜日で、この日は午前中、イパネマのビーチに行き、午後はブラジルのミュージシャンたちとレコーディングの打ち上げを兼ねてシュハスコを爆食。そこからマラカナン・スタジアムに移動してブラジル全国選手権の試合でフラメンゴを応援。快勝を見届けて一行と別れ、ホテルでシャワーを浴びて夜、一人でカエターノのライブを聴きに行くという、自分が30代初めてでなければとても対応できない、超ハードスケジュールな一日のフィナーレだった。

そんなわけで体は溶解目前、いつ寝てしまっても不思議ではない状態で臨んだライブだったが、いざ目の前にカエター

ノが登場して歌い出すと、脳が刺激されて頭の動きがどんどん活発になり、脳内のふだん使っていない神経が研ぎ澄まされていくのを感じた。カエターノには荘厳なカリスマ性と、気のいいアニキの表情と、裏町を歩くチンピラの佇まいが共存し、上半身をまとった衣装を脱いで頭にターバンのように巻きつけて歌うなど、演劇的な面もふんだんに披露。しかも、疲れ果てた体を抱擁しマッサージしてくれるような優しい歌声を聴いていると、自分が幽体離脱している錯覚にすら陥った。ある種、それまで自分が経験したことのない種類の音楽体験で、この日からカエターノは僕にとって特別な存在となった。

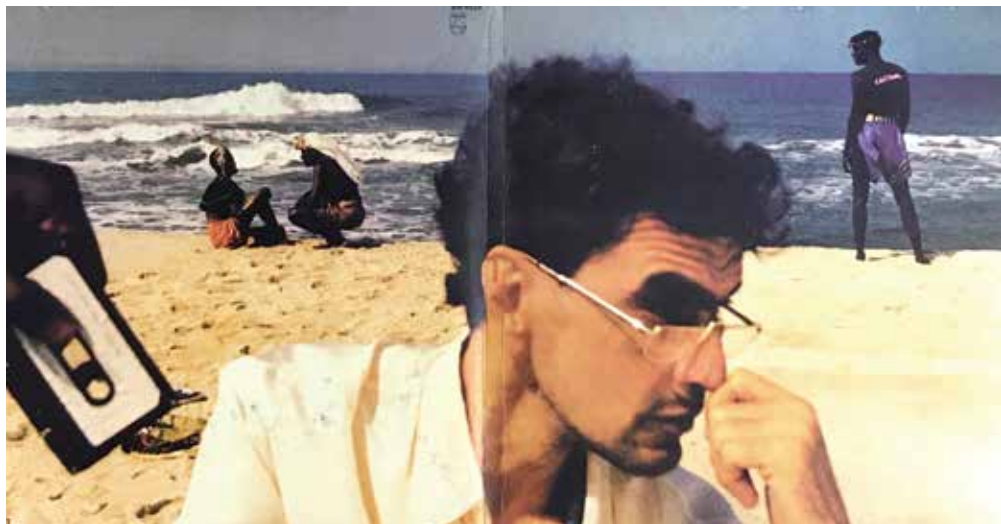
ちなみにこの日のライブは『カエターノ』と題する新作アルバムのお披露目で、レコードはリオにいる間に買ったがホテルの部屋にプレイヤーがないので、ライブの時点ではまだ聴けていなかった。ただ、レコードのアートワークが秀逸で、見開きのジャケットを広げると、故郷バイアの海岸に佇む思索者の表情のカエターノを中心に、数人のアフリカ系ブラジル人を配置した、著書『熱帯の真実』でも多くを書いているシネマ・ノーヴォの匠、グラウベル・ホッシャの映画を思わせる構図。音楽が聞こえてくるようなデザインで、まさにこのヴィジュアル・

イメージと同じ、“聴くシネマ・ノーヴォ”と呼べるライブであり、アルバムだった。

## 来日したカエターノとのインタビュー

カエターノの初来日は90年の真夏。アート・リンゼイらがプロデュースし、世界のロック・ファンにカエターノの「今」を伝えたアルバム『エストランジェイロ』のショーだった。このとき初めてインタビューできることになり、取材日が東京公演初日(8月7日、カエターノ48歳の誕生日)の前日だったので、東京に先がけて行なわれた大阪公演を聴きに行き、終演後に挨拶をして臨んだ。以来、東京では3回、インタビューしてきたが、通訳は毎回、『熱帯の真実』の訳者、国安真奈さん。ヴォキャブラリーが人並みはずれて豊富で時には理屈っぽく難解にもなるカエターノの発言に対応できる通訳は彼女をおいていない。

それまでも大勢の音楽家にインタビューしてきたが、カエターノの場合はたんなる質疑応答ではなく、言葉によるインプロヴィゼーションのセッションである。そう気づいた。カエターノは発言の中にさりげなく重要なヒントやキーワードを折り込み、それにインタビューアがどう反応するか、チェックしてい



「Caetano」(87年) アルバムジャケット▶



◀ 90年初来日時のバックステージ

ジョアン・ジルベルトに関する質問をしてきたが、ジョアンについて語るカエターノはいつも、理屈や難しい言い回しを廃し、徹底して詩人の口調なのだった。

## 中原仁的エピソードをいくつか

その後、97年の来日公演(スペイン語圏の名曲を中心に歌う『粋な男(フィーナ・エスタンバ)』のショー)の際のインタビューを経て、98年11月にはロンドンでインタビュー。この時は通訳なしで臨む大胆不敵で無謀な設定だったが冒頭で「あなたの話を日本語に訳すにあたっては、国安真奈さんの力を借ります」と伝えたら「マナが君を助けるならパーフェクトだ。彼女は最高だよ」のお言葉。僕のポルトガル語のレベルを知っているカエターノは言葉を選びながら、小学校の教師並みのゆったりしたテンポで話してくれた。でもいったん着火すると一気に難解な表現と文法が続出、僕は討ち死にしたが…。

2005年の来日公演(アメリカン・スタンダード集『異国の香り』に自作の名曲をミックスしたショー)の時は、ドキュメンタリー・ロード・ムーヴィーの撮影スタッフが同行し、東京、大阪、京都で撮影したため、インタビューの時間がとれなかったが、完成した映画『コラサオン・ヴァガブンド』の中に、とても印象的なシーンがあった。

京都の寺院で僧侶がカエターノに近づき、「コラサオン・ヴァガブンド」(67年のデビュー・アルバム『ドミンゴ』収録の名曲)が好きで、ここ(境内)でときどき聴いていると英語で伝えたのだ。

これにはカエターノも大喜び。2016年の来日公演(弾き語りのソロ・パフォーマンス)で「コラサオン・ヴァガブンド」を歌った後、「ここ数年、世界中のどこでこの曲を

▼ ソロライブ (2012年リオ)



歌っても日本を思い出す」とアナウンスし、寺院でのエピソードにも触れた。

この時に行なったインタビューで、カエターノの3人の息子たち(モレーノ、ゼカ、トン)が音楽家として活動している話をしているふと思いつき「ファミリーでアルバムを作るというアイデアはどうですか? かつてのカイミ・ファミリー(ドリヴァル・カイミ&ナナ、ドリ、ダニーロ)のように」と水を向けたら「実はそれも考えていた。(中略)私がまた日本に来ることが出来るなら、次はぜひ、モレーノと一緒にショーをやりたいと思っている」と話してくれた。

しかも、翌2017年から2018年にかけて、カエターノと3人の息子は国内およびヨーロッパ各国をめぐるコンサートツアーを行ない、ライブ盤『オフェルトーリオ』をCDとDVDで発表した。78歳の誕生日にあたる2020年8月7日には、自宅のリビングで息子たちと共にライブを行ない、生配信した。カエターノの艶やかで色香に満ちた歌声は衰えを知らず、78歳とは思えない。世界が平穏な時代に戻ったら、ぜひこのメンバーで通算5度目の来日公演を行なってほしいと思う。



▲ ジルベルト・ジルとのデュオ・ライブ (2015年リオ)



# 『Verdade tropical』から『熱帯の真実』へ

## 『熱帯の真実』の訳者として

ブラジリアン・ポピュラー・ミュージックを代表する存在、カエターノ・ヴェローゾの著作『Verdade tropical』の日本語版が、このほど株式会社アルテス・パブリッシングから『熱帯の真実』として刊行の運びとなった。私はその翻訳を手がけている。本稿ではこの書籍について、訳者の立場からざくばらんに語ってみたい。



▲『熱帯の真実』初版、改訂版、英語版

## 自叙伝ではない回顧録的小説

カエターノは1942年、バイーア州サント・アマーロ・ダ・プリフィカサオン生まれ。67年から翌年末にかけてトロピカリズム（またはトロピカーリア）と命名された音楽ムーヴメントを主導し、それ以降も文化・社会・政治などブラジルという国の根幹に関わるテーマについて常に発言し、音楽的創造、映画制作、評論の執筆などを通して議論を喚起してきた。

『熱帯の真実』は彼の代表的な著作であり、個人的な回顧録の形をとりつつ、ブラジルという国／国民／文化およびトロピカリズムという密接に相関するふたつの公的な論題について振り返り、分析する。時代としては著者の幼少期にあたる50年代から70年代半ばまでの時期

を中心とし、サブテーマとして、音楽のみならず映画、文学、演劇、人、社会、政治、哲学など様々な分野をまたぐ。

とはいえ、本書は学術書ではない。かといって、すらすらと読み進むことのできる自分語りでもない。初版のカバー返しには、カエターノ自身の言葉として、自叙伝ですらないと書かれている。著者によれば、「大衆音楽の本を求める人にはややこしすぎ、ややこしい本を読みたいと思う人には大衆音楽に近すぎるかもしれない」。あるいは、「エッセーが散りばめられた小説として読まれるべきだ」ともいう。

## 『熱帯の真実』の特徴

単純なジャンル分けでは捉えられない本書を開いて、最初に興味を惹かれる特徴をあげるとしたら、一つは多くのセンテンスが長く複雑であること、もう一つはまるで直感像記憶のように細密な著者自身の心理描写だろう。

まず、多くのセンテンスが長大かつ複雑であることについて、著者は「僕は長いセンテンスが好きで、実際それ以外の方法では、会話の中でさえ自分を表現することができないのだと思う」と書いている。事実、多くの文は、ある一つの仮定から発して、ある一つの結論に至るような、単純な構造を持っていない。統語論的分析をすれば、緻密さと正確さの度合いに吃驚させられるだろう文が続く。そうした文を積み重ねたパラグラフも、しばしば極めて複雑な意味を持つ。そして、パラグラフとパラグラフの繋がりも、また然りだ。読む者は、あたかもカエターノという人の思考の道筋の拡大や収縮、分岐や統一、屈曲や迂回、寄り道といった様々な局面があまざず記録されているかのような印象を受ける。



国安真奈  
（『熱帯の真実』訳者）

## カエターノ来日時の通訳体験から

実は、この特徴的なスタイルが著者本人の発話に現れるのを、来日時の日本語媒体通訳として、一度だけ聞いたことがある。あれは2度目の来日時だったように思う。残念ながら、インタビュアーが誰で、どの雑誌に掲載されたのかは今ではもう記憶にないが、何本もの媒体が連続して取材を行うインタビュー・マラソンの中で、ある質問に対してだけ、カエターノは他と全く異なる返答の仕方をした。その発話の構造の複雑さ（通訳メモが、突如として大変ややこしいものになった）が、本書に特徴的な文体とそっくりだった。

他の質問に対しては人が普通に会話するのと変わらない答えを返していたので、ガラッと口調が変わったことが印象に残っている。なぜ、あの時だけ、明らかに違う話し方をしたのだろう。インタビュー・マラソンでは、形式上どうしても、インタビュイーは同じような質問ばかり繰り返し受けることになりがちだ。「同じ質問が多い。なぜ記者会見にしないのか？」と、ずばり訊くインタビュイーもいる。「（もう答えは知っているのだから）君（通訳）が代わりに答えてくれ」



◀カエターノ・ヴェローゾ著『熱帯の真実』日本語完訳版表紙



◀4度目の来日時（2016年10月）

と言う人は、幸い少数派だ。繰り返しの図式を受け入れた上で、話し手自身も飽きないように、別アングルから回答するなどして工夫する人が多い。カエターノの場合も、たまたまその質問に対して、突っ込んで自己表現してみようと思ったのかもしれない。問いを構成していた要素のいずれかに、そのような反応を誘うものがあったのかもしれない。だが質問は、その時点までの質問の流れや傾向から特に飛躍するものではなく、また哲学的であったり政治的であったりといった特殊なものでもなかった。その証拠に、訳し終えて目線を上げたら、インタビュアーが目を丸くしていたことが記憶にある。同様の驚きが、この本では存分に味わえる。

## 細密な心理描写

もう一つの特徴、極めて細密な著者自身の心理描写も、全編を通して強い印象を読者に残す。とりわけ第2部「ヂヴィーニョ・マラヴィリョーゾ」の章の幻覚剤についての記述や、第3部「ナルシスの休暇」の章で、それは顕著だ。

特に後者は、1968年12月27日から翌年の2月19日までに及んだ軍事独裁政権による逮捕拘禁（彼は、後に文化大臣となる盟友ジルベルト・ジルとともに身柄を拘束された）について仔細に証言する章だ。理由も詳らかにされぬまま投獄され、釈放どころか取り調べを受ける機会についてすら何の見通しも持てずに灼熱の監房に閉じ込められている著者の心理が、形の異なるブロックをひとつひとつ積み上げるような緻密な描写で記されている。執筆時点ですでに30年が経過している出来事について、自身の心の動きと思考の流れをこの精度で再現

像できる。

国家による暴力、法の庇護を受けられないという状態の本当の恐ろしさを、私たちの多くは幸いにして直接は知らない。しかし、例えば思想信条の侵害についてはどうだろうか。この章が喚起する疑問は決して少なくなく、しかも重い。それらの疑問は、時間や場所の違いを超え、未解決のまま世界中に存在し続けている。そうしたことに思いを巡らせる時、当時を知らない若い読者に、著者がこの章を先に読むよう勧めることに合点がいく。「ナルシスの休暇」は、この章だけでも一級の歴史証言であり、広く読まれ、引き継がれていくべきものののだ。

そして、このような剥き出しの心理を文字に表すにあたって、著者が一体どれだけの精神的エネルギーを必要としたかについても、読み手は想像せずにはいられない。その思いは、初版刊行20年を記念する新版の序を読んで、さらに強まった。そこでカエターノは、『粋な男』の国内ツアーの最中に鬱の発作に見舞われたことを記している。考えられるその原因のひとつが、感情的性質の強い出来事を語ったことだったかもしれないと書く。

## ポルトガル語初版は1997年

ポルトガル語の初版は、サンパウロのEditora Schwarcz社（Companhia das Letras）から1997年に出版されている。訳者が原書を手にしたのは初版発行から間もない頃で、それから邦訳版刊行までに20年以上の歳月が経過した。とはいえ、この時間は翻訳作業のみに費やされたわけではない。翻訳権の取得、取得後の移転、訳者と編集担当者それぞれの公私の事情など、あれやこれや

があり、翻訳作業はそれらの合間を縫うようにして進んだ。

原書が文字ばかりの全524ページという本なので、どうしても他の仕事をやりながら訳していくことになる。少しでもまとまった時間があれば、翻訳を進め、訳文を読み直して修正した。また、この20年の間には訳者の頼りない雑多な知識も多少は増えたり整理されたりして、訳注の多くに反映できるようになった。結果的には、本書の翻訳にはそれだけの時間が必要だったのだろうと思う。

## カエターノの長男モレーノは物理学者

昨年6月、私用で訪れたリスボンのダウン・タウンで、訳者は偶然、カエターノの長男モレーノと再会した。実はカ

エターノはモレーノ、ゼッカ、トンの3人の息子たちとともに7月に『オフェルトーリオ』の欧州ツアーを予定しており、モレーノはそれに先駆けて、家族や友人たちとサント・アントニオ祭を楽しもうと、リスボンに滞在していたのだ。

何度も来日しているモレーノは、ミュージシャン、アーティストであると同時に現役の物理学者でもある知的な人だ。そして日本語の学習者でもある。その彼は開口一番「父の本を訳してるんだって？」と笑顔で訊いてきた。カエターノ本人から聞いたのだろうか。その時は、翻訳は上がっているが、編集作業に着手できていないのだと答えた。

あれから1年余。ようやく「ほら、できたよ」と言える。モレーノ、そしてもちろんカエターノ本人が、訳に頷いてくれるとよいのだが。



# ブラジルの校長直接選挙制度 ～その歴史と意味



田村徳子  
(京都先端科学大学准教授)

## ブラジルのユニークな 校長の選び方との出会い

読者のみなさんは、ブラジルの公教育にユニークな校長の選び方が存在しているのをご存知だろうか。それは校長直接選挙（Eleição Direta para Diretor Escolar）と呼ばれるもので、簡単にいうと教員、職員、保護者、児童生徒による直接選挙によって校長を選ぶというものである。もちろん、すべての校長がこの方法で選ばれている訳ではない。ブラジル国家教育調査研究所（INEP）の2015年のデータによれば、調査をおこなった校長の約3割が校長直接選挙をとおりて就任していることが明らかとなっている。もちろんこの割合をどう捉えるは人それぞれではあるが、ブラジルにおいて校長直接選挙は決して稀有な制度ではないといっても過言ではないだろう。ここではこの校長直接選挙制度の実態と歴史の一端をご紹介します。

本題に入る前に、まず私と校長直接選挙との出会いからお話させていただきたい。それは私が大学院博士課程3年目の2013年の春のことであった。当時、

私はこれといった研究対象をみつけれず、悶々とした日々を過ごしていた。そんななか、指導教員との会話中にふと、ある論文で目にした校長直接選挙のことを話題に出した。すると指導教員が一言。「これを研究せずに何を研究する！」これが私の校長直接選挙研究人生の始まりである。ちなみに、私の指導教員は世界の教育を研究対象とする比較教育学を専門分野とする。そのような世界的視点を携えた教育学者がこのような言葉を発したくらい、校長直接選挙は魅力と不思議に満ち溢れた教育制度なのである。一般的に、校長は学校の運営・経営に関する高度な専門知識を求められる専門職である。校長直接選挙のようなやり方で、果たして「適切な」校長が選べているのだろうか。誰もが浮かぶであろうこの素朴な疑問がそのまま、私の研究テーマとなった訳なのである。

## ブラジルにおける校長

やはりまず気になるのは、校長直接選挙でどういった人が選ばれているのかという点であろう。そのことを語る前に、

まず、ブラジルにおける校長についてお話しておきたい。

校長というと、日本では年功序列に従って、教頭などのキャリアを積んだ定年退職前の教員がなるというのが一般的であろう。しかも校長は男性であるというイメー

ジをお持ちの方も少なくないのではないだろうか。ところがブラジルの場合はそうではない。OECD 国際教員指導環境調査（TALIS）の2013年のデータによると、ブラジルの校長の年齢平均は45歳であり、年代別の割合でみると40歳代以下が全体の約7割を占めている。実際、校長には、数年程度の教職経験等の諸条件を満たした教員や教育専門士（教員や管理職、保護者等に助言を与える専門職）であれば就任でき、数年校長を務めたあとに再び教員や教育専門士に戻ったりすることも珍しいことではないらしい。そこには、年功序列や上下関係をあまり重視しないというブラジル文化も関係しているのだろう。また、注目すべきことは女性校長の割合である。ブラジルの女性校長の割合は74.5%と、世界的にみても極めて高い割合を示している。これらのことを合わせると、ブラジルの校長とは、30歳代や40歳代の女性というのが一般的ということになる。

ちなみに、校長職はブラジルでは不人気の職業となっている。その理由として聞こえてくるのは、割に合わない仕事であるというというもの。ブラジルの場合、校長は授業を受け持つことはなく、1つの学校の運営に専従する。ただし、権限はほとんど与えられておらず、限られた予算と人材、設備のなかで、教育行政や教職員、保護者、地域住民らの意見を取りまとめ、学校運営をおこなうことが求められるという責任の重大さは、たとえ給与が他の教職員よりも良いとはいえ、生半可なものではないだろう。校長職に就くよりかは、教員や教育専門士であり続けることを好むものが多いという事実も、いかに校長の業務が大変なものかを物語っている。だからこそなのだろうが、校長



◀(左)筆者、(右)パラ州の学校の校長 (2014年撮影)

室に関する分野を専攻していること、そして教員あるいは教育専門士としての勤務経験が一定程度あることが求められている。つまり、制度規定によって、教職の専門性はある程度、確保されているのである。

## 校長直接選挙の歴史

つぎに、なぜ校長直接選挙なる制度が誕生したのか、その歴史的経緯をみていきたい。ブラジルで最初の校長直接選挙が実施されたのは1983年パラナ州でのことであった。1980年代という、周知のとおり、民主化を求める社会運動が活発化していた時代である。そのような時代において、校長直接選挙は教員の労働運動のなかで要求された。というのも、当時の校長は行政による指名によって任用されるのが一般的であり、実際は知事や市長、議員などの政治家の息がかかった人物が選ばれることが少なかった。その結果、適切な資質・能力を備えない問題校長が存在することも珍しくなく、教職員の待遇や公教育の質に対する不満とも相まって、校長は教育のあらゆる問題の象徴のような存在になっていたのである。こうしたなか、時代はまさに軍事政権に対する不満が絶頂期に。民主主義の名の下に、国民による大統領の直接選挙を求める社会と同調するように、学校でも民主主義に向けた教職員や保護者、児童生徒による校長の直接選挙が求められたのである。

ところでなぜ、教員、職員、保護者、児童生徒の直接参加という形態である必要があったのだろうか。そこにはブラジル特有の思想や実践が関連していると思われる。たとえば、それはカトリック教会の活動のなかにみい出すことができる。1950年代以降の工業化を背景として、多くの貧困層が生みだされるなか、キリスト教基礎共同体は教区や礼拝堂のまわりに信徒を集め、聖書の学習や礼拝をとおして、自分たちの置かれた状況の厳しさを聖書から読み解き、生活向上をめざす活動を展開した。そこでは参加と民主的関係が強調され、政治意識をほとんど持たないものや女性の参加が重視さ

れていたという。そしてこうしたキリスト教の活動は、貧しく抑圧された人びとの側に立つ解放の神学にもつながっている。また、教育の分野では、抑圧された民衆（Popular）が学習することで、自らの置かれた状況を批判的に捉え、実生活に必要な知識を身につけ、社会を変革することをめざす民衆教育が生まれた。それは、1960年代以降、ブラジルの教育学者パウロ・フレイレの教育思想・実践に取り入れられ、そこでは教師と学習者が水平関係であるべきことが提唱された。さらに、1970年代から展開される新しい労働運動でも、全成員が平等に扱われ、全員参加や合意による意思決定が理想とされる特徴がみられる。このように、ブラジルには、抑圧されていたものの権利を訴え、その主体性を尊重し、直接参加を好む土壌が歴史的に存在しているのである。校長直接選挙制度は、まさにこうした思想や実践を学校教育に反映させた民主主義の実践として捉えることができるのではないだろうか。

## 校長直接選挙の意味

最後に、これまでの調査をとおしてみえてきたブラジルで校長直接選挙なる制度が実践し続けられている意味を考えてみたい。ブラジルには、直接参加による意思決定を民主主義の理想のあり方として求め、実践してきた歴史がある。学校という共同体のリーダーを、その構成員による直接選挙で選ぶ制度はまさに、その歴史に基づいた、ブラジルで望まれてきたブラジルなりの理想の民主主義の実践であるといえるだろう。つまり、校長直接選挙には、結果ではなく、全員参加であること、すなわち、教員、職員、保護者、児童生徒が直接参加して校長を選ぶというプロセスそのものに、社会的価値が置かれているのではないだろうか。それが、ブラジルで校長直接選挙が実践され続ける意味であると考えられるのである。

なお、校長直接選挙に関する詳しい内容は、拙著（『ブラジルの校長直接選挙：教職員と保護者と児童生徒みんなで校長を選ぶことの意味』東信堂、2020年）をご参照いただければ幸いである。



▲(左)筆者、(右)パラナ州の学校の校長 (2014年撮影)



# マスク着用が 日常となったブラジル



平野 司  
(株)海外進出駐在代行 取締役、  
tkb brasil 社代表)

## コロナ感染でも大国

新型コロナウイルスの累計感染者数・死者数ともに米国に次ぐ世界2位のブラジル（7月末現在）。生活でも大きな変化があり、特にマスクは今や欠かせないアイテムとなった。

ブラジルにはそもそも、マスク着用の文化はなかった。医療従事者はともかく、一般の人が使用することは考えられなかったが、すっかり定着した感がある。

## 2月5日、「マスク着用」初登場

新型コロナがまだ「中国での出来事」だった2月5日、サンパウロ市内の商業ビルの管理会社が、入居する中国系企業の従業員に対してマスク着用や作業用エレベーターのみを利用するよう通達。差別的だと話題になった。思えばこれが、コロナ禍のブラジルで「マスク着用」という言葉が出た最初の出来事だった。2月後半のカーニバル開幕前は、迫るコロナの足音に警戒ムードこそ高まりつつあったものの、空港でも街中でも特に対策は採られていなかった。

## 最初のコロナ感染者確認



2月末、その連休中に欧州を旅行し帰国したサンパウロ市内在住者を、初の新型コロナ感染者として確認。サンパウロで暮らす筆者周辺の雰囲気が一変したのは、3月9日の週だった。同16日には国内初の死者が市内で確認され、1週間後の3月24日にはサンパウロ州が外出自粛要請を出すに至った。

それでもまだ、マスクは浸透していなかった。私自身も当地に住み始めて以来、付けたことはなかった。感染者として扱われる不安を抱えつつ、マスク姿で初めて外出したのは3月23日の週。近所の青空市（フェイラ）に食材買出しに行くのに、自宅に眠っていたのを引っ張り出したのだった。

## 3月、まだマスク無し

この時マスク姿で歩いていたのは、日系人など東洋系の人たちのみ。一方、どこで入手したのか本格的な医療用マスクを付ける買い物客も数人いてこちらが驚いた。屋台の兄ちゃんたちは、マスク無しに相変わらず大声で客を呼び込んでいる。

テレビで盛んに「家に居ろ」と呼びかけられ、平日日中でもまるで日曜日のように街が静まり返った3月末には、マスク姿で歩く人の割合が増した。しかしこの頃には、使い捨ての不織布マスクの入手は困難になっていて、薬局店頭で売切れの張り紙がされていた。

## 4月、手作りマスク登場

連邦保健省が「布マスクを作ろう」と広報を始めたのは、感染者数が1万人前後に達した4月初旬。テレビの情報番組でも自家製の作り方を伝え始めた。地下鉄駅前などで布マスクを立ち売りする人が現れたのはその直後くらいから。カラフルなものが1枚5レアルから売られる。なお現在は、品質にこだわらなければ簡単に手に入る。市内の薬局でも、5月には使い捨てマスクを箱単位で買えるようになった。1枚3レアル程度が相場だ。

ところが4月はまだ医療施設でのマスク不足が深刻だった。刑務所では受刑者が職業訓練用ミシンで製作（労働3日あたり1日の減刑）。リオの名門サンパチームも衣装制作陣が製作し、高齢者など周辺住民に配布する取組みを展開した。

大手銀行3行は、所得確保のために開設が急増した個人零細企業の製作するマスク1,500万枚を5千万レアルで買い上げる支援活動も展開。サッカークラブもチームロゴをあしらったものを製作し、普及に一役買った。

サンパウロ州の外出自粛要請下では、必要不可欠な業種として食料品店やスーパーマーケットの営業は続けられたが、入店時にマスクは必須となった。同州では、4月17日に着用を推奨する政令を公布。この頃にパウリスタ大通りを行き交う人の着用率は5割程度だった。

## 5月、マスク着用の義務化

5月5日からは、地下鉄・バスなどの公共交通機関の利用時に着用を必須とした。入手できなかった利用客向けに、駅で配るボランティアも現れた。最近の電車は冷房化が進んだ分、窓が開かない構造となっていて、車内の換気の悪さが気になった。そして同7日からは、路上など公共の場所での着用が義務化。最初は着用率100%近くに見えたが、1ヶ月も経つと見た目で7割程度まで低下した。そこでサンパウロ州は、不着用時の罰金（個人は525レアル）の適用を7月2日から開始。今や体感的な着用率は9割を超えている。

## 7月、レストラン店内営業再開

市内では、7月6日から日中のみレストランの店内営業を再開。店員がマスクに加えてフェイスシールドも着用するのも珍しくない。しかし客とはいえば、飲食中はもちろん、食後も外したままおしゃべりを続ける。自粛続きのため対面で人と話すこと自体が久々で、マスクをつい忘れてそのまま話し込んでしまう人も多い。店員も流石に注意しにくそうだ。

街中で着用しない人は決してゼロとはならず、そんな人々にカメラを向け、テレビキャスターが視聴者に注意喚起しているのも、コロナ以前のブラジル知る者からすればシュールに映る。しかし今や、ほとんどの州・市で外出時の着用が義務化され、そして地域差も大いにあれど大半の人々が一市民としての責任感に基づき遵守するという、新たな日常が生まれている。

# ポルトガル語隔週刊誌 alternativaの歴史 来年には20周年

菊地シルビア  
(alternativa 誌編集長)



## コミュニティの表情を伝える雑誌

来年で創業20周年を迎えるalternativaは在日ブラジル人コミュニティをありのまま描き、そして読者には日本の生活に欠かせない情報を伝え続けているポルトガル語の雑誌である。また、ウェブ版「Alternativa Online」とともに、日本で生活するブラジル人をはじめ南米系外国人や日本に興味がある海外の読者を対象としたメディアとして、言語の壁を越えて日本との架け橋の役割を果たすことを目指している。



▲2001年に発行された  
alternativaの1号

## コミュニティとの歩み

旬日伯友愛が出版するalternativaとは、日本で初めて無料配布されたポルトガル語雑誌であり、それまでは週刊新聞紙が独占していたマーケットから飛び出る先駆者となった。

シリアスでアクセスしやすいマーケティングを実業家に提案するために、旬日伯友愛のリカルド田井社長は広告に重点を置いた無料のタブロイド紙を作ろうと考えた。16ページの雑誌形式で白黒広告のみの仕事情報誌スタイルの出版物だった。

この新たな試みが成功すると言うことを広告主に納得させるのは実に難しく、無謀といえるほどのチャレンジだった。無料配布であったため、当初alternativaは市場の反発を買ったが、少しずつ人々から受け入れられ事業オーナー達のサポートを得るようになった。

16号からは協力ライター達が執筆した短い記事の掲載を開始した。大きな改革の節目となったのは、2002年11月15日発行の37号で、この号から64ページのオールカラーになった。ビジュアルと同じくalternativaはコンテンツにも投資し、自社独自の記者スタッフが制作し始めた。隔週発行を続ける本誌は今年の10月8日に通算500号を発行することになった。



◀雑誌の印刷工程の一部

▶alternativa雑誌のデジタルサイネージマガジンラック。日本の主なブラジル雑貨店に設置され、1時間に80回以上、最新ニュースや広告がモニターに表示される



## Alternativaの構成

本誌は特集記事の他、現在は次のような様々なコーナーにより構成されている

- お便り、ご意見、サイト内トレンド：ここでは手紙、メール、QRコード、及び、SNSで頂く読者からの声をお届けする。
- コラム：様々な分野の専門家や東京、名古屋、及び、浜松総領事館からの意見を掲載している。
- エンターテインメント、健康、教育、カルチャー、スポーツ、ファッション、及び、サービスなど、その他コーナー。

## オンラインの影響

Alternativa Online ウェブサイトは月平均224万ページビューで、平均364,000人のユニークユーザーがいる。

Facebook、Instagram、TwitterなどSNSでは18万人以上がフォローとなっている。

## エンパワーメント

この年月を通して、多くの重要な時事情報だけではなく、先祖の祖国で生活することを選んだブラジル人達のストーリーを掲載してきた。そして、私たちの使命は常に全国の北から南まで、さらにはブラジルや他の国に住んでいる人にも、ウェブ版を通じて最高のコンテンツを提供することである。

2018年10月にこの雑誌の編集長職を引き継いだ時、雑誌には別の大きな使命がある事を確信した“日本のブラジル人コミュニティに力を与え、自分たちの権利のために戦う正しい決断を下せる手段を提供する事”である。

大きなチャレンジの1つは、年齢、性別、職業、日本滞在歴などにかかわらず、さまざまな読者層の関心に添える事だ。

現在alternativaの目標の1つは、紙媒体の雑誌からデジタルユーザーを対象にしたデジタル版への転換である。多くの人が手紙や電子メールに頼る必要があった数年前とは異なり、現代のコミュニケーションはSNSを通じてはるかに能動的である。

さらに、雑誌の各記事にはQRコードが付いており、読者達はこのコードから互いに交流し、リンクに飛びコメントをする。

読者の望みや関心を満たすことを目指して、alternativaは常に進化を続けている。ニュースからサービス、ガイドまでに及ぶ編集内容は娯楽の提供も目指している。

現在はコロナ禍の中で、私たちは在日ブラジル人に役立つすべての情報を提供するように心がけている。

コミュニティへのサポート、日本との架け橋をより強くすること、そしてそのために学ばなければならないことはまだまだたくさんある。



# 汚職に関する法律

## 1. ブラジルにおける汚職の状況

トランスペアレンシー・インターナショナルという国際非政府組織が毎年発表している腐敗認識指数によると、ブラジルの2019年の汚職ランキングは、180か国中106位であった（順位が下がるほど汚職の度合いが高い）。ブラジルの歴史上最大の汚職調査と言われるLava Jato調査以降、多くの政治家や企業の役員などが逮捕されているが、それでも汚職事件は後を絶たない。新型コロナウイルスに対処するための臨時的措置として、現在公的機関による医療機器等の購入に関して公共入札が不要になっているが、それを利用した汚職事件も多発している。

「汚職はブラジルの文化である」とルーラ元大統領の弁護士（元法務大臣）が発言するように、ブラジルでは汚職が蔓延している。そこで、本稿では、汚職に関するブラジルの法律を概観したい。

## 2. 汚職に関する法律

汚職に関する主要な法律としては以下の法律があげられる。

| 法 律                               | 概要(汚職に関する部分)             |
|-----------------------------------|--------------------------|
| 刑法<br>(1940年法規政令 2848号)           | 公務員による収賄行為及び公務員への贈賄行為を処罰 |
| 行政活動不正行為法<br>(1992年法 8429号)       | 公務員による収賄行為及び公務員への贈賄行為を処罰 |
| 公的機関による調達に関する法律<br>(1993年法 8666号) | 公共入札に関する汚職行為を処罰          |
| 腐敗防止法<br>(2013年法 12846号)          | 汚職行為に関して法人を処罰            |
| 組織犯罪法<br>(2013年法 12850号)          | 組織犯罪を処罰                  |

上記各法律は、その適用対象が個人か法人か（たとえば、腐敗防止法は法人のみがその適用対象となる）、汚職行為に関して故意過失を要件とするか否か（たとえば、行政活動不正行為法については行為者の故意過失が要件となるが、腐敗防止法の場合は無過失責任である）、刑事罰があるか否か（たとえば、刑法では個人に対して禁固刑などの刑事罰を科すが、行政活動不正行為法では刑事罰はない）などの違いがあり、ケースバイケースで適用される法律が変わり得る。ただし、それぞれの法律が重疊的に適用されることもあり得る。

## 3. 個人に対する罰則

刑法に基づき、国内公務員に対して賄賂を支払った者は1年以上12年以下の禁固刑及び罰金が科せられ、外国公務員に対して賄賂を支払った者は1年以上8年以下の禁固刑及び罰金を科せられる。なお、賄賂の結果、作為・不作為・遅延等が発生すれば

柏 健吾  
(TMI 総合法律事務所日本法弁護士  
現在ブラジルで勤務)



加重される。また、行政活動不正行為法に基づき、汚職により取得した利益の没収や損害賠償が科せられる。さらに、公共入札に関して汚職行為が行われた場合には、公的機関による調達に関する法律に基づいても処罰され得る。

## 4. 法人に対する罰則

汚職行為が行われた場合、腐敗防止法に基づき、法人に対しては、①課徴金、②司法処分（汚職行為に基づき取得した資産等の没収、公的機関からの補助金の受取り禁止など）が科せられる。課徴金については、調査開始年の前年度の売上高から税金を控除した額の0.1%～20%の範囲内で決定される。腐敗防止法施行令（2015年施行令 8420号）では、課徴金の算定方法が規定されている。たとえば、取締役などの経営層が違反行為を認識していたような場合は課徴金額が上がる要因の一つとなっている。一方、社内にコンプライアンスプログラムがあり、それが適切に運用されていたような場合には、課徴金額が下がる要因の一つとなっている。そのため、ブラジル子会社が汚職リスクのある事業を行っている場合（公的機関と取引がある場合等）には、日本の親会社としては、ブラジル子会社がコンプライアンスプログラムを有しているか、また、それを適切に運用しているかを確認することが重要となる。なお、最近の汚職事件の増加を受けて、州によっては、コンプライアンスプログラムを設けていることが公共入札への参加の条件となっている。

## 5. その他

### (1) 商業賄賂

ブラジルの腐敗防止法では、民間企業同士の賄賂（過剰接待やキックバックなど）は処罰対象になっていない。ただし、このような行為は、別の犯罪（詐欺や横領等）に該当する可能性はある。

### (2) ファシリテーションペイメント

公的手続きを円滑・迅速に行うために少額の金銭の支払いを公務員から求められることがある。この金銭の支払いはファシリテーションペイメントと言われるが、ブラジルでは、このような場合も、賄賂の支払いとして処罰対象となる。

### (3) 贈答・接待

工場の竣工式などに地元の政治家などを招待し、その際に、記念品を贈答したり、食事を提供すること考えられる。このような贈答や接待は理論上は腐敗防止法に定める「利益の供与」に該当し得る。ただし、実務的には、多くの公的機関の倫理規定において、100レアルまでの贈答・接待については、当該贈答・接待が不正な目的でない限り許容される旨の規定がある。

### (4) リニエンシー

腐敗防止法上の要件（最初の通報者であることなど）を満たす法人はリニエンシー契約を締結することができる。リニエンシー契約を締結することで課徴金の減額等を得ることができる。

# ブラジル国税庁(Receita Federal) 2020年税務調査計画 税務当局の今後の焦点項目



ペドロ・アンデルス  
(KPMG サンパウロ  
事務所  
パートナー)



吉田幸司  
(KPMG サンパウロ  
事務所  
パートナー)

2020年7月21日にパウロ・ゲーデス経済大臣は、政府としての税制改正案を議長へ提出し、今後、税制改正についての議論が開始されることが期待される。当該内容は、多くの方が興味を持っていると思うが、今後追加での税制改正案も提出される予定であり、次回以降の適切なタイミングで述べていきたい。ブラジルでは多くの企業が税務調査に対して不安を持っているが、税務当局の調査重点項目等を把握しておくことは、将来税務調査において指摘されるリスクを軽減する上で役立つといえる。税務当局は毎年、年次税務計画調査報告書を公表しており、今年は2020年5月26日に公表されているため今回はその内容について簡単に説明したい。

## 概要

2020年5月号で述べたようにタックストランスフォーメーションの波はこのブラジルにおいて納税者のみならず、公的機関にも及んでいる。納税者の会計及び税務報告プロセスが進化する一方、税務当局も徴税及び納税者から提出される情報のクロスチェックのためのリソースやツールを強化しており、この動きは税務当局が今回公表した報告書からも垣間見ることができる。

この年次税務計画調査報告書には以下の2つの章でまとめられている：

1. 前年度の徴収状況に関するデータ
2. 当年度の計画及び指針

前年度(2019年度)に関するデータは非常に上手く纏められており、租税に関するデータに関心のある読者にとって貴重な情報源（一例として、徴収総額の推移等）であることは間違いないが、税務リスクの低減にあたっては、将来情報の方がより有益と思ひ、今回は「当年度の計画及び指針」に焦点を当てる。

## 当年度の計画及び指針

同章では、当年度の税務についてホットトピックとなる可能性のある項目を覗き見ることができる。また、訴訟の観点から、今後の税慣行を左右する決定的な判決に関するインサイトも提供している。年次税務調査計画は公共への説明責任を果たすために公表されており、納税者にとっては新たなシナリオへの対応、そして税慣行の見直しを検討するために貴重な情報を得るものである。

同報告書によると、税務当局は不正及び脱税の摘発のために様々なツールを用いることを明確にしている。例えば、国際

条約の締結により、ブラジル税法の適用を受ける可能性がある海外に所在する銀行口座に関する情報などを取得できるようになっており、一例としてCRS（共通報告基準）によりブラジル国税庁がタックスヘイブン地域を含む国外の80万にも及ぶ銀行口座に関する情報を取得する事が可能であり、この情報を用いることを明確にしている。

報告書ではさらにビッグデータについても強調している。ブラジル政府はここ10年ほどの間に驚くべきデータレイクを形成しており、そこにはありとあらゆる種類の納税義務に関する納税者情報、また各租税のデータバンクが集積されている。これにより、国税庁は銀行から得られた情報などとクロスチェックを行い、不整合な情報を特定することが可能となっている。

税務当局は納税者の活動を調査するための包括的なツールを保有しているだけでなく、その活動のなかで不整合と考えられる点に焦点を当てるなど明確な指針を持っている。また、報告書はブラジル国税庁の今後の調査において、中規模及び大企業、そして個人の富裕層に対して焦点をおくとしている。

## 特に重点を置く項目

当該報告書上、ブラジル国税庁が特に重点を置く項目として2つ挙げられている。一つはストック・オプション・プラン（株式報酬制度）、もう一つはアウトソーシング労働者である。ブラジルの日系企業でストックオプションプランを導入している企業は殆どないと思われるため、ストックオプションプランの説明はここでは割愛し、ここではアウトソーシング労働者について少し説明したい。

アウトソーシング労働者についての税務上の主な問題点として請負業者が法令で義務付けられている源泉徴収関係が挙げられる。請負業者は、アウトソーシング労働者に対する報酬支払額の一部を源泉徴収する義務がある。アウトソーシング形態は、正規雇用よりも規制が緩く簿外での報酬支払いが行われやすく、結果としてブラジル税務当局が適切な徴税が出来ていないと思われる状況が発生しやすいことから、ブラジル国税庁は重点を置いている。

年次調査計画はブラジル国税庁がどのような枠組みにおいて行動するかを決める青写真である。当寄稿では一部しか記載出来ないが、当該報告書には上記のほか、組織再編によって生じるのれんのことなど様々な項目が記載されている。このようなブラジル国税庁の動向等を把握することは、将来の税務リスクを低減させ、また、税務当局対応のためのイノベティブなソリューションを発見するのに役立つかもしれない。



# アマゾンの旅に想いを馳せる 世界一美しい川ビーチ



山本綾子

(ブラジリア連邦大学 UnB 観光学修士)

過激すぎるブラジルのコロナ報道に胸を痛めつつも、日本でもコロナコロナコロナ…。ブラジル含め海外との関係が深い読者の方々は、いつになったら海外出張や旅行へ行けるだろうと息苦しさを募らせているかもしれない。筆者もこのストレスを打開すべく、これまで旅したブラジル各地を思い起こした。約9年間のブラジル生活で最も記憶に残る辺境の観光地といえば、アマゾン中流域にあるアルテール・ド・シャオン (Alter do Chão) だ。

ブラジル大西洋岸の海岸線は7,000～8,000kmともいわれ、各地にその土地自慢の美しいブライア(ビーチ)が点在する。アルテール・ド・シャオンは、イギリスの有力紙『The Guardian』が選ぶ「ブラジルのビーチ・ベスト10」で、リオやバイアなど海岸沿いの名所を差し置いて堂々1位に輝いたこともある「川のビーチ」だ。コロナ前の昨年10月には、全国紙『O Estado de S. Paulo』で近隣空港の利用が前年比54%増を記録し、2020年は国内で最も人気の旅先という予想記事まで掲載された。7年前に筆者が訪れた時の記録を元に、この場を借りて“現実逃避の旅”をしてみよう。

## 衝撃! 大河の秘境ビーチ

ベレン・マナウス間のほぼ中央に位置するサンタレンの空港に到着する。空港から車で走ること約30分、東から流れるアマゾン川に南から流れるタバジョス川が合流する地点にアルテール・ド・シャオンはある。予約していたボウザーダに着いた後、周辺を歩いてみる。宿、レストラン、お店がこじんまりと集まる本当に小さな田舎町だ。陽射しが強く、熱帯特有のねっとりとした空気に包まれる。

目の前には海のような真青に光る川が広がるが、当然、潮の香りはしない。何より衝撃的なのは、人々が集まるビーチが陸地に沿っていないことだ。ビーチは対岸の半島から細く長く伸びていて、

その長い砂浜にバンガロー風の屋台が並び、人々が寝そべったり、食べたり飲んだりしているのが遠く見える。

ビーチには日焼けした地元男性が漕ぐ小舟でゆらりゆらりと渡る。砂浜は真っ白で、小魚が泳いでいるの見えるほど水も透明だ。この細長いビーチは季節によって形を変え、水量が多い上半期はほぼ砂浜が消えて、青々と茂る木々と高床式の屋台だけが水面から頭をのぞかせるといふ。

## 悠久のアマゾン時間を体感

大河に浮いたビーチを満喫したら、対岸の陸地に戻り、小さな街を散歩する。船着き場の広場周辺こそ宿や店が集まっているが、1本奥に入れば地元民が暮らすシンプルな家々が続く。こんなアマゾンの片田舎で、時折、ドイツ語やフランス語で話す観光客とすれ違う。外装からこだわるセンスのいい店も多く、オーナーと世間話をしてみると、サンパウロなど南部から来たブラジル人やヨーロッパ人が多い。みな美しい川ビーチに魅了され、商売を始め住みついたようだ。近郊のアマゾン奥地に暮らすインディオ部族の民芸品を集めた店ではつい長居する。都会のインディオ博物館よりずっと種類豊富だ。

レストランでは、地元特産のトゥクナレやタンバキ、ナマズ系のスルピンなど川魚料理を注文する。揚げた川魚をトマトソースで煮込んだ「エスカビッシュ Escabeche」は見た目よりもさっぱりした料理で、穏やかな川ビーチを見ながら食が進む。ゆったりとした時の流れ、川から吹く風、生温かな空気、地元アマゾンの人々ビーチをとりまく空間を含めて、この地は単なる観光地ではない。人生観が変わる旅とはこういうことかもしれない。

現実逃避の旅から戻ると、アマゾンに暮らす友達のことが気になりだした。サンタレンで出会った芸術家のインディオの知人にSNSで連絡すると、マナウスに転居していた。多くの知り合いがコロナに感染し、何人かは亡くなったという。彼の弟さんも発熱し、息苦しくなり臭覚を感じなくなったが1週間で治った。混雑している医療機関に行くことはなく、ましてPCR検査も受けていないらしい。ニュースでは感染者数と死亡者数ばかり伝えられるが、これが実態の一部なのかと心が痛む。そんな彼は変わらず明るく平然としているから不思議だ。大自然アマゾンに先祖代々生き抜くパワーなのだろうか。

### 【余談】

◎アマゾンの旅へ想いを巡らしていると、マナウスの知人から魅力的な案内が届いた。コロナ禍ならではの企画、オンラインによる日本人向けライブツアーである。早朝の約90分間、現地の日系人ガイドさんが解説しながらマナウスの市場を巡るもので、日本では夜9時スタート。アマゾンの景色や魚、食材に加え参加者同士のチャットを見ながら、こちらはお酒を片手に、さながらアマゾン旅行×Zoom飲み会となる。※旅行会社(株)アルファインテルHP参照。

◎拙著『改訂版ブラジル・カルチャー図鑑』は、日本ブラジル中央協会サイトで販売中。



## 現代に息づく 一本の糸と針でつくる ブラジルの手編みレース

Yasuko  
(コロリダス(職代表))

2015年と2016年2度に渡りブラジル北東部のレース編みの地を訪れた。

ヨーロッパからの移民と共に、ブラジルには様々なレース編みの技法がもたらされた。

ボビンレース、フィレレース、ルネッサンスレースなどで、中でも、一本の糸と針を使って編み上げるニードルレースの技法を使った、ルネッサンスレースの美しさは目を見張るものだ。編まれている地域も、パラíba州のカリリやベルナンブーコ州のボサン周辺の限られた地域のみで、いずれも都市部から離れており情報も少ない地域の為、とにかくは電話でレース編み職人を当たってみた。ボサンのレース編み協同組合の組合長を務めるソコーホさんと連絡をとることができた。ソコーホさんは組合員が編んだレースをカゴに入れて、毎週レシーフェの物産店に納品に通う。その日はカーサ・ダ・クルトゥーラで待ち合わせて、彼女の帰宅時に同行してボサンを訪れることに。昼前にレシーフェを出発。電車、バス、乗合いタクシーを乗り継ぎボサンに到着した時には夜が暮れていた。

ニードルレースの技法はポルトガル人移民によりレシーフェにもたらされ、1930年代にこの地に伝わった。16世紀にヨー

ロッパで盛んに編まれていたため、ブラジルの地でルネッサンスレースと名付けられた。夫が酪農や農業をする傍、女性達はレース編みで生活を支えてきた。今でもこの地では多くの女性達の収入源となっている。ポルトガル語でレースをRENDA(ヘンダ)と呼ばれるようになった所以である。10センチ四方を編むのに1日かかる。作品のサイズによってはグループで取り組み、4ヶ月、1年かかるものもあるが、編み子さん達はレースを編んでいる時が一番リラックスできる時間だと口を揃えて言う。自分達が編んだ真っ白なレースを誇らしげに広げて見せてくれたのが印象的だった。

現在本家ヨーロッパでは職人は数少ない高齢の方のみで、中国の奥地で編まれている以外は世界でも見られなくなってきているようだ。現役の編み子さん達が盛んにレースを編んでいるブラジルは、世界中でも最後の場所なのではないだろうか。

コロナ禍で現地のレースの売上が90%以上落ち込んでしまったと先日連絡があった。ボサンを訪れた時は編み子さんのお宅に滞在し楽しい時間を過ごした。あれから5年細々と取引を続けてきた。自分が今できることは何か考える日々だ。

## ジャーナリストの旅路

## 改正入管法30年、日系ブラジル人の今

田口直樹  
(読売新聞社会部記者、前リオデジャネイロ特派員)

特派員として約3年間を過ごしたブラジル・リオデジャネイロから帰国して半年。日本では、新型コロナウイルスの影響で失業や減収にあえぐ日系ブラジル人らが増えている。日系人の定住が認められるようになって30年。多くが非正規で働き、経済危機に雇用や生活を脅かされる不安定な立場は変わっていないようだ。

愛知県豊田市の保見団地の集会所では7月中旬、日本語が不自由な外国人向けに就労支援の日本語教室が開かれていた。参加者の一人で、日系ブラジル人3世の女性は「感染が続けば、仕事がなくなり、生活が立ちゆかなくなる」と不安を口にした。

女性は、安定した生活や治安の良さを求めて2018年6月に来日。夫は自動車部品の工場で働いているが、新型コロナの影響で仕事が減り、収入は半減した。幼い子供がいるが、おcaずを減らして食費を切り詰めているという。

ほかにも仕事を失った日系ブラジル人たちに取材を申し込んだが、「派遣会社の採用面接が急に入った」として直前に予定が変更されるケースが相次いだ。収入を得るには、一刻も早く新たな仕事を確保しなければならない。事態の深刻さが伝わってきた。

日系人は日本語などが壁になり、派遣社員など非正規雇用现就くケースが多い。景気低迷時にリストラの対象になり、生活を翻弄されやすいのはそのためだ。

日本では、1990年の改正入管難民法の施行で、南米などに移住した日本人の子孫について、3世までは本人とその家族の定住や就労が認められた。日系人が多くを占める在留ブラジル人は急増したが、08年のリーマン・ショックで多くの日系人が解雇されると、国は帰国費用を支給して帰国を促した。「日系人を雇用の調整弁にしている」との批判も相次いだ。

世界最大の日系人社会があるブラジルに加え、ペルーやキューバなど中南米の多くの国では、日本人の勤勉さや誠実さへの敬意を強く感じた。開拓移民などとして移住した日本人と子孫たちは苦難を乗り越え、信頼を築き上げてきた。日本人移民がブラジル南部ロンドリーナ市に設立した私立学校では、ブラジル人の生徒が増えていた。規律や礼儀を重んじる日本文化を学ばせようとする保護者が多かったためだ。

一方、日本で働く日系人から「何かあったら先にクビを切られるのは私たち。使い捨てのようだ」との声が上がるのは寂しい。日本語教育や職業訓練などを通じて、同じ社会の担い手として活躍しやすい環境を整えることが必要だと感じている。



# 経済学者セルソ・フルタード生誕100周年 パライーバの生んだ逸材

岸和田仁（『ブラジル特報』編集人）

## 50年前の予言

「今後数十年の経済統合過程は、一部の地域における古い資源利用形態の崩壊を求める一方、国内における資源と生産要素利用の全体的ビジョンの確立を要求するであろう。（中略）ブラジルの人口は今世紀末には2億2500万以上に増大するであろう。そうであれば、ブラジルはそのころも依然、発展段階と総潜在資源の相違が著しい地球上の最大の地域の一つをなしているであろう。」

これは『ブラジル経済の形成と発展』（初版1959年、水野一訳、新世界社1972年）の最終章（第36章 今後数十年の見通し）の結語部分である。人口規模の予想も、発展段階と潜在資源の相違が著しい格差社会になるだろうとの予想も、ほぼ的中しているといえるだろう。

ブラジル経済史を勉強する者は、ブラジル人学生だろうが海外の研究者だろうが誰もこの古典的必読書にお世話になったものだが（ちなみに、この著書の累計出版部数はブラジルだけで30万部以上、英語・フランス語・スペイン語・ポーランド語・イタリア語・中国語・日本語などの翻訳版も加えれば40万部以上）、この著者セルソ・フルタード（1920-2004）が、ノルデスチの田舎町（パライーバ州ボンバル市）で出生したのが1920年7月26日であったから、今年7月で生誕100周年となる。

## 生誕100周年を記念して

この国際的知名度も高い経済学者の生誕100周年ということで、7月26日前後の1週間、ブラジルの新聞各紙は、主要紙（ヴァロール紙、フォーリャ紙、グローバ紙など）からノルデスチの地元紙（ディアリオ・デ・ペルナンブーコ、ジョルナル・ダ・パライーバなど）まで、いずれも長文のフルタード関連記事を掲載していた。また複数の大学（パライーバ連邦大学、リオ州立大学、カンピーナス大学、パリ大学など）では、記念フォーラム（オンライン）が開催され、現在彼の著書を刊行している出版社（Cia.das Letras）の主宰による記念オンライン座談会も行われていた。

筆者もそのいくつかの記事を読み、オンライン議論も視聴したので、この機会に、改めて、このパライーバが生んだ偉人の知的レガシーを再確認しておきたい。

## プレビッシュ理論

セルソ・フルタードは、初等教育はパライーバ、高校はレシーフェだったが、リオの連邦大学では法学部を卒業、パリ大学で経済学博士号を得てから、世界を舞台に活躍してゆく。1949年から57年までは、チリを本拠地とするCEPAL（国連

ラテンアメリカ経済委員会）のエコノミストとして経済分析を深耕し、いわゆるプレビッシュ理論≪技術力を有し製造工業製品に特化する先進国＝中心経済と、一次産品に特化する発展途上国＝周辺経済との従属的關係から、発展途上国の経済開発が制約される、という一次産品交易条件悪化説をより広範化した考え方≫の確立・精緻化に直接関与してから、ブラジルに戻る。彼の低開発経済論に則って1959年に創設されたSUDENE（ノルデスチ開発庁）の初代長官に就任した時は、まだ39歳の若さであった。1962年には企画大臣となるが、1964年の軍事政権成立に伴い亡命を余儀なくされ、チリを経て、バリ大学やエール大学で長年に亘って教鞭をとることになる。低開発経済分析の世界的権威として知られ、受賞は逃してしまっただが、2003年にはノーベル経済学賞にノミネートされている。

## 主著『ブラジル経済の形成と発展』

フルタードはその生涯に30冊以上もの著書を刊行しているが、1957年から翌年にかけてケンブリッジ大学に招聘された際、非ブラジル人学生向けのブラジル経済史の教科書を書く必要性を痛感して書き上げたのが、冒頭に引用した『ブラジル経済の形成と発展』である。

この著は、サトウキビやコーヒーに代表される輸出依存型モノカルチャー農業がいかにブラジル経済発展を奇形化させたか、を明示し、一次産品の生産と輸出に特化していた歴史がブラジル経済社会の形成を如何に決定づけたか、を史実に基づき確認し、米国は19世紀に工業化したのに、ブラジルは何故できなかったか、といった疑問に対する回答を論じた書であった。

ケインズから大きな影響を受けたフルタードは、新自由主義的な経済グローバル化は、従属と低開発を誘発し、国内の社会的不平等を増大させるとして批判的であり、公的介入による構造改革を伴う経済開発を主張したのであった。海外貿易の重要性は認識しつつも、「経済のダイナミズムは国内市场によって創出される」と確信する内発的発展論者であった。経済学書よりもプラトン哲学を終生愛読したフルタードは、ノルデスチ出身という自らの出自に誠実にこだわり続けた哲人であったが、自分の名字（フルタード＝詐欺された、盗まれた、の意）が文字通りノルデスチの歴史を象徴している、という深層意識を彼は抱いていたのではないかと筆者は脱んでいる。



▲ルレーラ大統領と



◀ケネディ大統領と

## ●アラウージョ外相とサレス環境相の更迭が画策されている

軍人派のブラガ・ネット文官長とラモス大統領府事務総局長官は、ボルソナール大統領を説得して最高裁との休戦に漕ぎ着けた後、伯の外交的孤立を打開するため、アラウージョ外相とサレス環境相の更迭を画策している。伯の孤立は、アラウージョの「イデオロギー外交」とアマゾン森林破壊によるところが大きいとされている。政治家の間でも内閣改造が行われれば、アラウージョとサレスが更迭される可能性は高いと評されている。そうした動きを察知した同外相は、外務省の全ての部局に対し、ボルソナール政権発足後の外交成果についてリスト・アップするよう指示。自らの成果を誇示するためと見られている。（7月3日付コレイオ・ブラジリエンセ）

## ●伯政府民主党のバイデン当選に対する警戒を強める

ボルソナール大統領の側近が匿名で語ったところによると、伯政府は、米大統領選で民主党のバイデン候補が当選した場合、伯が外交政策の柱（対米関係最優先）を失い、国際社会で孤立し、環境と人権の分野で槍玉に上がることになると警戒を強めている。その場合、アラウージョが外相を続けるのは極めて困難になると見られている。軍人出身の側近は、ボルソナールに対し、トランプ米大統領を称

賛するのを止め、同大統領から距離を置くように進言しているが、今のところ、ボルソナールはこれを見做している。（7月7日付フォーリャ・デ・サンパウロ）

## ●7月の貿易黒字は80億ドル強

8月3日付ヴァロール紙によれば、今年7月の貿易収支黒字は80億6千万ドルで、前年同月比237%増となり、単月の貿易黒字額ではブラジル史上最高となった。この要因はコロナ禍の影響による国内経済停滞に伴う輸入の大幅減少であるが、1～7月の累計貿易黒字は303億8千万ドルで前年同期比8.2%増であった。

7月の輸出総額195億6千万ドルは前年同月比プラス2.9%であったが、輸入総額115億ドルは前年同月比マイナス35.2%であった。1～7月の累計輸出総額は1212億8千万ドルで前年同期比マイナス6.4%、同輸入総額909億ドルは前年同期比マイナス10.5%であった。

7月の輸出金額を部門別でみると、農畜産品は前年同月比17.3%増となっているが、工業製品は前年同月比マイナス12%であった。

1～7月累計輸出額を仕向け地別にみると、前年同期比で、中国向け15.4%増、北米向けマイナス27.3%、南米（主にアルゼンチン）向けマイナス27.2%、ヨーロッパ向けマイナス6.6%となっている。

## ブラジルにおける人種問題

安彦優希  
（日本大学史学科4年）

私は大学で史学科に所属しながらブラジル史の研究をしている。最近、卒業論文で扱う「ブラジルにおける格差問題」についてこれまでどういった研究がなされているのかという、いわゆる研究史をまとめている。そこで今回は、人種に関する格差問題に的を絞って研究史をまとめてみることにした。お堅いテーマで恐縮であるが、一読して頂けると幸いである。

ブラジルにおける人種問題をテーマに研究している学者は、その大多数が自身の論文や著書にて他国における人種問題、とりわけアメリカ合衆国の人種問題を引き合いに出してブラジルにおける人種問題を考察している。これは、アメリカ合衆国の人種問題に関する研究の歴史はブラジルのそれよりも長いこと、また地域は違えど両国が奴隷を導入した時期、背景は類似していることから、比較対象として十分な史料となりうるからである。例えば、20世紀後半にフレッドリクソンは、ブラジルとアメリカ合衆国における人種関係と人種差別の共通点を十分な論拠を示して的確に分析している。それらの主張が頻繁にされた1940年代から1950年代の研究を中心に、ブラジル人種問題

の研究をみていくことにする。

南北アメリカの人種関係の比較について、多くの論文や書籍がこの時期に出された。それらの多くが主張していることは、「ブラジルや他のラテンアメリカの奴隷制社会は、アメリカ合衆国と比べると温和的で、自由の獲得が容易であった」というものである。彼らの見解は、「ラテンアメリカ圏に定着した奴隷制はイベリア文化圏の長い伝統に支えられ、それはアングロアメリカ圏に生まれたものとは異質である」というものであった。その主張の根幹をなしているのが、「奴隷法の有無」とその内容である。イベリア文化圏では、奴隷法によって奴隷の人格が認められていたために、様々な権利が奴隷に付与されていた、と主張した。それに対して、アングロアメリカ圏の場合は奴隷を律する法律を欠いていたために、彼らは完全に財産つまり「物」とみなされ、人間に与えられるべき一切の権利が剥奪されていた、と主張された。すなわち、イベリア文化とアングロサクソン文化の違いを反映した体制がそれぞれの奴隷制の決定要因となったと彼らは主張している。



## 新刊書紹介

◆◆◆◆◆ 新刊書紹介 ◆◆◆◆◆

### 『ブラジルの校長直接選挙』 (田村徳子著)

ブラジルには 1980 年代から、公立の小中学校の校長を、教員、職員、保護者、生徒が参加する直接選挙で選ぶ制度が機能しており、州によって多少異なるが 2000 年代からこの制度の運用が本格化している。この世界的にも稀な試みに着目した教育学者が、この歴史的思想的背景を追究し、パラナ州とパラ州の事例研究を通じて現状と問題点を論じている。博士論文に加筆した学術書であるが、文体は読みやすく、一般読者にも薦めたい。

(東信堂 2020 年 3 月 192 頁 3,200 円＋税)

### 『アメリカに生きるユダヤ人の歴史(上巻)』 (H・モーリー・サッカー著、滝川義人訳)

アメリカにおけるユダヤ人の運命と宿命の年代記であるが、上巻は 17 世紀から第一次世界大戦まで。最初の章では、ブラジル・ノルデスチにおける

オランダ支配下のユダヤ人たちの活躍から、軍事的敗北によって同地におけるオランダ支配が終焉し、1654 年レシーフェを脱出してニューヨーク（当時ニューアムステルダム）に辿り着いた 23 人について、詳しく記述している。米国における最初のユダヤ人はレシーフェ出身者であったのだ。

(明石書店 2020 年 4 月 928 頁 8,800 円＋税)

### 『移民がつくった街 サンパウロ東洋街』 (根川幸男著)

サンパウロ発祥の地に近接した地区に 20 世紀に入ってから東洋街が形成され、発展してきているが、この歴史を「もう一つの日本近代」と捉える著者による歴史社会学的モノグラフが本書だ。サンパウロ大学に提出した修士論文に大幅加筆したものだが、同地区の商店街発展の中心人物であった水本家の家族史の事例研究も踏まえており、著者のノンフィクションライターばりの文章力のおかげもあって、一つの都市物語に仕上がっている。

(東京大学出版会 2020 年 7 月 403 頁 3,900 円＋税)

### 『赤い砂を蹴る』(石原燃著)

赤い砂とは、ブラジル南部のテラ・

ロッシャ(赤い土)のことだが、劇作家(津島佑子の長女、太宰治の孫)の小説デビュー作は、亡くなった母の友人(ブラジル日系二世)に同行して彼女のルーツである弓場農場を訪問する、という私小説だ。著者が 2017 年にサンパウロを訪問調査した時、作家松井太郎とも面談しており、この小説の舞台となったサンパウロに関する描写はブラジル関係者にも参考になる。受賞は逃したが芥川賞候補作であった。

(文藝春秋 2020 年 7 月 158 頁 1,540 円＋税)

### 『熱帯の真実』 (カエターノ・ヴェローソ著、国安真奈訳)

著者本人が「本書は、エッセイが散りばめられた小説として読まれるべきであろう」と書いているが、1960 年代後半以降、トロピカリズムと称されたポピュラー音楽革新運動を展開した張本人による回想録の小説である。ブラジル人読者にも難解にしてややこしいといわれた原文が訳者の力量のおかげで読める日本語になっているのが、今回刊行された日本語完訳版だ。原著は初版 1997 年、改訂版 2017 年だが、この改訂版からの完訳である。

(アルテスパブリッシング 2020 年 9 月 544 頁 4,200 円＋税)

!!「ブラジルあれこれ」!!

## BRASIL para principiantes(3) -Introdução ao Código Secreto-( 続き )

7 月号では、ケルメン(Peter Kellemen)の著書“BRASIL para principiantes”から、「秘密のコード入門(Introdução ao Código Secreto)」と題する章を紹介した。フランス人老医師ドウトール・アンドレーが語るブラジルでの生活に当たり知っておいたほうが良い「秘密のコード」とはどのようなものか。具体的な例として主人公のパウロ・ケネディーとペレイラ氏との貸した金をめぐる会話が表示された。今回は字数の関係で会話の後半部分を割愛したが、ここでは、前回に続く部分を見ておこう。

「『秘密のコード』による会話が成立したので、ここからは、本題の「貸したお金」について話す危険を冒しても大丈夫だ。「お貸した 1000 クルゼイロを何時取りに伺ったらよいでしょう?」と聞いてみよう。

もし、ペレイラ氏が、ポケットに 1050 クルゼイロを持っているならば、その場で 1000 クルゼイロを君に払った上で、君をお昼に誘うだろう(決して誘いを受けてはならない)。もしお金を持っていないければ、それでもお昼に誘うだろう(君は、誘いを断る)。その上で、後ですぐに電話するよう言うだろう。これは、「秘密のコード」によれば、まだお金を返す日を約束できないというサインだ。そんな時、「お金のやりくりが窮しており、300 クルゼイロだけでもお願いできないでしょうか?」と聞いてみよう。これは、君が分割払いを受け

入れるとのサインになる。ペレイラ氏が 300 クルゼイロ持ってれば払うだろうし、残りの分については、振出しのやり取り(「ペレイラ氏は出かけた。」と言う秘書の言葉に始まるプロセス)に戻る。

でもあきらめる必要はない。貸した金は必ず戻る。ペレイラ氏は、払えるものは払うとの態度のようだからだ。君には、辛抱強さ、慎重さとペレイラ氏の発する「秘密のコード」を理解することが求められる。いらだってはいけな。ペレイラ氏は、このようなやり取りを君とだけしている訳ではなく、他の誰とでもしているのだから。君が、シニカルで皮肉に満ちた、嘲笑するような態度をとる代わりに、彼への信頼と純真で半ば無邪気な態度をみせるなら、1000 クルゼイロは必ず戻る。そればかりかペレイラ氏を介する新たなビジネスで、1000 クルゼイロ札を何枚も手にすることができるかも知れない。

君が忘れてはならないことは、ブラジルに着いたら最初の 1 年間を通じ、このプロセスに慣れることだ。相手の態度、曖昧な言葉、眼差し、暗示の持つ意味を的確に判断することを学ぶ必要がある。なぜならブラジル人は決してはっきり「ノー」と言わないからだ。」

こういう会話を余裕をもって出来るようになれば、ブラジルでの生活もより余裕に満ちた楽しいものになるに違いない。それは、日本人にとってそう簡単ではないだろうが、試してみる価値はありそうだ。Paciência! (MK)



## 日本ブラジル中央協会

イベント・ポルトガル語講座のご案内

イベントのご案内

東京コンサルティングファームの協力による  
ブラジルオンラインセミナー

日時: 9 月 11 日(金) 日本時間 10:30 ~ 12:00  
演題: ブラジルにおけるビジネス推進上の問題(仮題)

- COVID-19 の影響ならびにブラジルの現状
- ブラジルでのビジネスにおいて企業が考えるべきこと(ブラジルの特殊性、難しさ等)
- 具体的に複雑な税制について  
新労働法でブラジルは、どう変わったか? 等。

2020 年度 秋期ポルトガル語講座のご案内 [オンラインでも受講可能!](#)

新型コロナの蔓延もあり、春期講座から、オンラインでの受講、または、教室での受講、どちらも可能となっております。秋期講座も同様です。

- ◆ 全くの初心者コース【火曜 16:30 ~】※5 名以上で開講します。  
9/8 ~ 12/8 [全 12 回] 受講料: 30,000 円 講師: 岸和田 マリレーネ先生
- ◆ 初心者コース【火曜 19:00 ~】  
9/8 ~ 12/8 [全 12 回] 受講料: 30,000 円 講師: 岸和田 マリレーネ先生
- ◆ 初級 I コース【金曜 19:00 ~】  
9/11 ~ 12/8 [全 13 回] 受講料: 32,500 円 講師: 岸和田 マリレーネ先生
- ◆ 初級 II コース【水曜 19:00 ~】  
9/9 ~ 12/2 [全 13 回] 受講料: 32,500 円 講師: 古庄 マリア先生
- ◆ 中級コース【月曜 19:00 ~】  
9/7 ~ 12/7 [全 12 回] 受講料: 30,000 円 講師: 上運天 ミゲル先生
- ◆ 上級コース【木曜 16:30 ~】  
9/10 ~ 12/3 [全 13 回] 受講料: 32,500 円 講師: 三浦 マリエ先生
- ◆ 上級コース【木曜 19:00 ~】※締切  
9/10 ~ 12/3 [全 13 回] 受講料: 32,500 円 講師: 三浦 マリエ先生
- ◆ 上級会話コース【隔週土曜 11:00 ~】※締切  
9/12 ~ 12/5 [全 7 回] 受講料: 17,500 円 講師: 三浦 マリエ先生

コースの詳細、お申し込みは、日本ブラジル中央協会 HP から受付しております。

法人・個人・学生

皆様のご入会を心よりお待ちしております

## 新規会員募集中

会員数 法人会員 約 113 社  
(2020 年 8 月現在) 個人会員 約 400 名

当協会の活動目的「日本・ブラジル両国間の相互理解、友好関係の促進に寄与する」にご賛同・ご支援頂ける方に、会員となることをご検討いただければ幸いです。

会員特典



- 協会会報「ブラジル特報」の無料配布  
隔月発行、年 6 回配布。
- 会員価格にて、講演会等のイベント、ポルトガル語講座に、参加できます(会員限定イベントへも参加いただけます)
- 会員交流懇親会へ参加いただけます
- ホームページにて、会員限定情報をご覧いただけます

年会費

法人会員 1 口 20,000 円 / 個人会員 1 口 10,000 円  
(2 口以上) (1 口以上)

※入会金は不要です

お申し込み



《日本ブラジル中央協会公式 HP》  
<https://www.nipo-brasil.org>

日本ブラジル中央協会 検索

「ブラジル特報」は一部有名書店の店頭でも入手できます。



# ブラジル赴任の前に ビジネスで使えるポルトガル語を



ブラジルでビジネスや生活をする上で欠かせないのがポルトガル語です。  
BrAsia(ブレイジア)では赴任前と赴任後の語学研修を提供しています。  
「講師任せにしない」 現地に精通したスタッフも学習をサポートします。

## BrAsia(ブレイジア)の研修プログラム

### ■赴任前ブラジル・ポルトガル語短期語学研修 30～50時間

現地赴任前に  
最低限の準備を!



独学の準備と  
自己紹介・タクシー移動等

※企業への講師派遣(首都圏・名古屋地区・京阪神)も可能です。

### ■ブラジル異文化概論&マネジメント講座 半日～1日

ブラジルの文化・  
ビジネスの課題を解決!



マネジメントや異文化理解等

### ■サンパウロ・ポルトアレグレ現地短期語学研修 1～6か月

キャンパスライフは不要!



マンツーマンで  
語学力を一気に向上

BrAsia(ブレイジア)  
代表者 小川善久



1987年大阪外国語大学(現・大阪大学)卒業。株式会社リクルートを経て2005年中国語の研修会社「漢和塾」を設立。2014年ポルトガル語の研修部門をBrAsia(ブレイジア)を設立。最低年1回ブラジル現地に出張しブラジルの今を体感中! またZENKYU(ステージネーム)として音楽活動も。日本のみならずブラジル現地で自作の曲を披露!  
参考)YouTube: ZENKYU CHANNEL

**BrAsia**(ブレイジア) 運営:株式会社 漢和塾 〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-12 楠本第17ビル5階  
お問い合わせは E-mail: [brasia@kanwajuku.com](mailto:brasia@kanwajuku.com) HP: <http://brasia-j.com/>  
TEL: 03-6263-0716

39年間  
南米一筋

# 驚き! 感動!!

## 魅惑のブラジルへの旅

ブラジルへのご旅行・出張は  
創業 1979 年のアルファインテルにお任せください。

アルファインテルは南米系旅行会社で唯一の国際航空運送協会 (IATA) 公認代理店です。  
航空会社との直取引につき、料金、座席確保に自信があります。

主要取扱航空会社: ユナイテッド航空、デルタ航空、アメリカン航空、ルフトハンザドイツ航空、エールフランス航空、  
イベリア航空、プリティッシュ・エアウェイズ、ターキッシュエアラインズ、エミレーツ航空、カタール航空、  
アエロメヒコ航空、ラタム航空、ニュージーランド航空、アルゼンチン航空、ゴル航空、コパ航空、アヴィアンカ航空

アルファインテルはブラジル総領事館(東京、浜松、名古屋)の登録業者です。  
観光や短期商用はもちろん、永住権取得や技術支援などの長期ビザもお任せください。

ご旅行・ご出張の際の現地のホテル、ガイド、車輛の手配も実績ある弊社にお任せください。

**株式会社アルファインテル**

(本社) 東京都港区新橋3-8-6 大新ビル3階

観光庁長官登録旅行業 第1835号  
社団法人日本旅行業協会正会員/OTOA正会員

TEL: 03-5473-0541 FAX: 03-5473-0540

アルファインテル



e-mail: [info@alfainter.co.jp](mailto:info@alfainter.co.jp)





「あ!ここにも。あそこにも」私たちの生活は大小さまざまなカタチの鉄に支えられている。それもそのはず。実は地球の重量の約1/3が鉄なのだから。3500年以上前から、この身近な素材を使うことで進化してきた人の暮らし。今だって柔らかな鉄、軽い鉄、小さな鉄…。鉄の可能性は広がり続け、人の暮らしの可能性も広がり続けています。



新日鉄住金は日本製鉄へと社名が変わりました。